

【2026 年度/専門科目領域/人間コミュニケーション学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等	
異文化コミュニケーション		選択	2	1	前期	
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー			
風間 絢日	看護学部	ayaka.kazama	授業後または Teams で連絡			
授業の目的・概要	<p><目的> 文化や異文化とは何かについて理解し、また異文化間で適切なコミュニケーションを取ることができるスキルを身に着ける。</p> <p><概要> 国境や文化圏を超えた人の移動がより一層盛んになり、またデジタル技術の進歩が私たちの生活に大きな影響を与える昨今、異なる文化と出会う機会が日常化してきている。本講座では文化・異文化とは何か、また異文化間でコミュニケーションを取るとはどのようなことなのかについて様々な国や文化を取り上げながら考えていく。</p>					
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input type="checkbox"/> その他 ()					
学習上の助言	異文化コミュニケーションを成功させるためには関心力を高めることが大切なので、好奇心を持って色々なことに会う努力を日常的に欠かさないことが必要となる。					
教科書	異文化コミュニケーション論/著: 八島智子, 久保田真弓/松柏社/2012					
参考書	必要に応じ授業中に適宜紹介する。					
外部教材	特になし					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	文化を様々な観点からとらえることができる			HC (1)(3)		
②	文化がコミュニケーションに与える影響について理解している			HC (1)(3)		
③	文化によるコミュニケーションスタイルの違いを理解している			HC (1)(3)		
④	多文化社会について適切な理解を持っている			HC (1)(3)		
⑤	異文化コミュニケーションの特性を理解している			HC (1)(3)		
⑥	異文化間のコミュニケーションを適切にとることができる			HC (2)(3)		
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)			
1	異文化コミュニケーションを考える	講義 ディスカッション	<授業前> 前週の授業中に与えられる指示に従い教科書の指定箇所を読むあるいは事前準備を行う。 <授業後> 講義内容を復習し、テーマについて自分の考えをまとめる。 <その他> 授業の課題以外にも、様々な記事を読むなどして積極的に異文化コミュニケーションに関連した話題に日常的に触れる努力をする。			
2	コミュニケーションとは何か	講義 ディスカッション				2
3	文化とは何か	講義 ディスカッション				4
4	文化・社会とコミュニケーション	講義 ディスカッション				4
5	異文化受容と異文化適応	講義 ディスカッション				4
6	文化による伝え方の違い：言語によるコミュニケーション	講義 ディスカッション				4
7	文化による伝え方の違い：非言語コミュニケーション	講義 ディスカッション				4
8	多文化社会とアイデンティティ	講義 ディスカッション				4
9	違いについて考える：区別と差別	講義 ディスカッション				4
10	グローバリゼーションと世界の多文化共生	講義 ディスカッション				4
11	日本の多文化化と多文化共生	講義 ディスカッション				4
12	「やさしい」コミュニケーション	講義 ディスカッション				4
13	異文化コミュニケーション力をたかめる	講義 ディスカッション				4
14	異文化コミュニケーションの実例から学ぶ	講義 ディスカッション				4
15	もう一度「異文化コミュニケーション」を考える	講義 プレゼンテーション				6
試	達成度評価・評価のポイント参照					

【2026 年度/専門科目領域/人間コミュニケーション学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	40	30	0	30	
総合 力 指 標	知識・技術力	0	10	0	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	10	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	10	0	0	20
	コミュニケーション力	0	0	10	0	10	20
	取組みの姿勢・意欲	0	0	10	0	10	20
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	毎回リアクションペーパーの提出が求められる。授業内容をきちんと理解しているか、授業内容に関し自分なりの意見が形成され、それを適切に伝達できるかが評価基準となる。				授業の中で提出されたリアクションペーパーに対する講評を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
成果発表	①	✓	指定されたテーマについてリサーチを行い、クラス全体に対しプレゼンテーションを行う。評価基準は授業中に提示する。				それぞれのプレゼンテーション後に授業内に講評を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	単に出席するだけでなく、積極的に授業に臨む姿勢が求められる。授業中の態度や参加度も評価の対象となるため、授業中のペアワークやグループワークには積極的に取り組むこと。				授業内でコメントおよび助言を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教員の実務経験	カナダの大学にて学位取得、タイの大学の英語プログラムにて修士課程を修了した後、外国人患者を多く受け入れるタイの私立総合病院にて8年間勤務し、医療コーディネーション業務などを行う。日本帰国後は大学にて語学試験対策や英語学習の指導などに従事するとともに多文化共生活動や医療通訳者の育成・普及活動、やさしい日本語の普及活動などに携わる。						
実践的授業の内容	海外での経験や多文化共生活動の経験を活かしつつ、学習者の積極的な参加を求める授業を通じて参加者全員でともに学んでいく授業を行う。						
そ の 他	ディスカッションやプレゼンテーションなどを通じて学ぶことも重視するため、授業への出席および積極的な参加が重要となる。授業に関する連絡を、Teams を通じて行うことがあるので Teams はきちんとチェックすること。また連絡は基本として Teams を使用すること。						